

<第38回調査>

2012年7月30日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2012年7月17日(火) 13:00～2012年7月24日(火) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は554件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

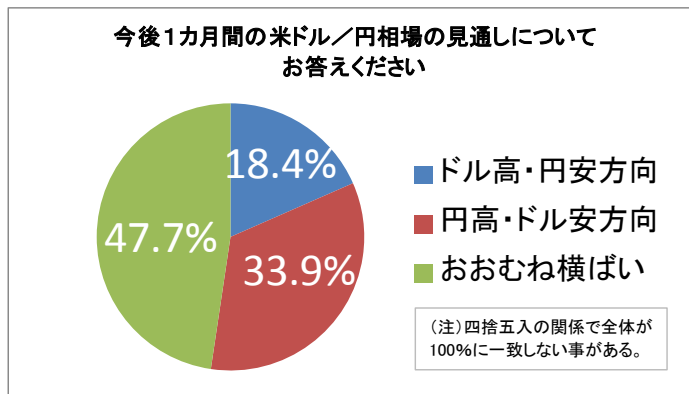
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第38回調査結果略報：ドル円、DIはマイナスも横ばい予想が約半数】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

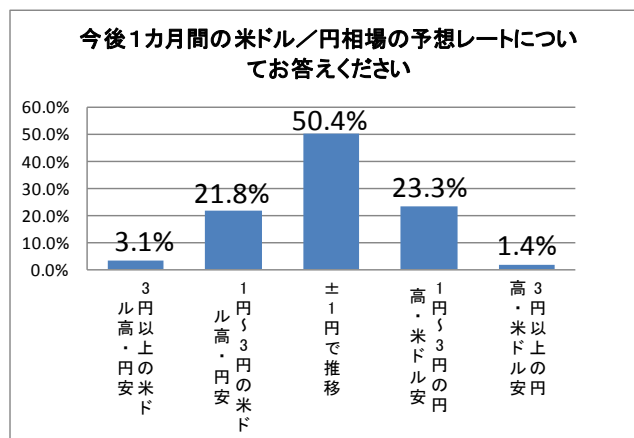
「今後1カ月間のドル円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が18.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は33.9%となった。この結果「ドル/円予想DI」は▲15.5%ポイントとなり、2カ月ぶりに円強気・ドル弱気予想が優勢となった。調査期間中のドル円相場が79.17円から77.94円のレンジで弱含みに推移した事から予想DI自体は円高・ドル安方向に傾いたが、約半数(47.7%)は「概ね横ばい」の推移を見込んでおり、多くのFX投資家はドル円相場に方向感を見出せないでいるようだ。「米追加緩和観測と欧州債務問題が上値を抑える一方で、本邦政府・日銀による円売り介入への警戒感が下値を支える」そんな展開を見込むFX投資家が多いのかもしれない。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が50.4%と最も多く、次いで「1円～3円の円高・ドル安」が23.3%、「1円～3円のドル高・円安」が21.8%、「3円以上のドル高・円安」が3.1%、「3円以上の円高・ドル安」が1.4%の順となった。ヒストグラムの形状は「概ね横ばい」の予想が最も多かった問1の回答結果と整合的である。ドル高・円安にせよ円高・ドル安にせよ、値動きが3円以内に収まると予想した割合は合算で95.5%にのぼる。FX投資家の今後1カ月におけるドル円相場の想定レンジはおおよそ75-81円であり、中でも77円-79円のレンジを予想する向きが最も多い事になる。



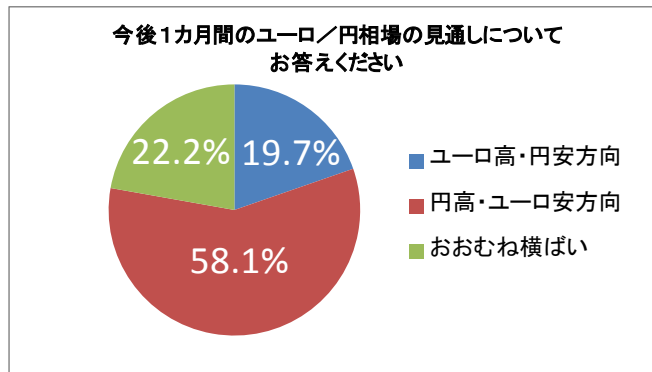
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が58.1%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は▲38.4%ポイントとなり、前回調査の▲26.8%ポイントからマイナス幅が拡大し、4カ月連続で円強気・ユーロ弱気予想となった。調査期間中のユーロ円相場は97.38円から94.10円のレンジで軟調に推移し、一時11年8ヶ月ぶりの安値を更新した。調査期間の後半に、スペイン地方政府の財政悪化やギリシャの債務不履行の可能性がクローズアップされたことから、FX投資家は円高・ユーロ安予想を強めたものと見られる。

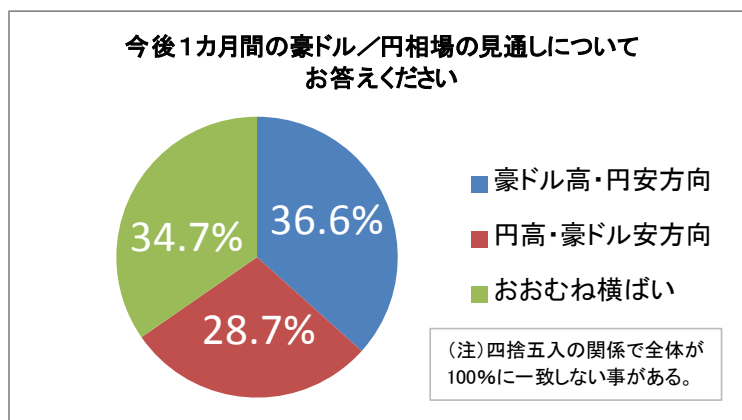
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が36.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は28.7%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+7.9%ポイントとなり、円弱気・豪ドル強気予想を維持したものの、プラス幅は2カ月連続で1ケタ台にとどまっている。調査期間中の豪ドル円相場は82.09円まで上昇した後、欧州情勢の悪化を受けて80.14円まで下落する展開となったが、FX投資家の見通しが円高・豪ドル安に転換するまでには至らなかった。日・米・欧などの主要国が金融緩和姿勢を強化あるいは維持する中で、相対的に金利が高い豪ドルに対する上昇期待はかろうじて維持されたと言えるだろう。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

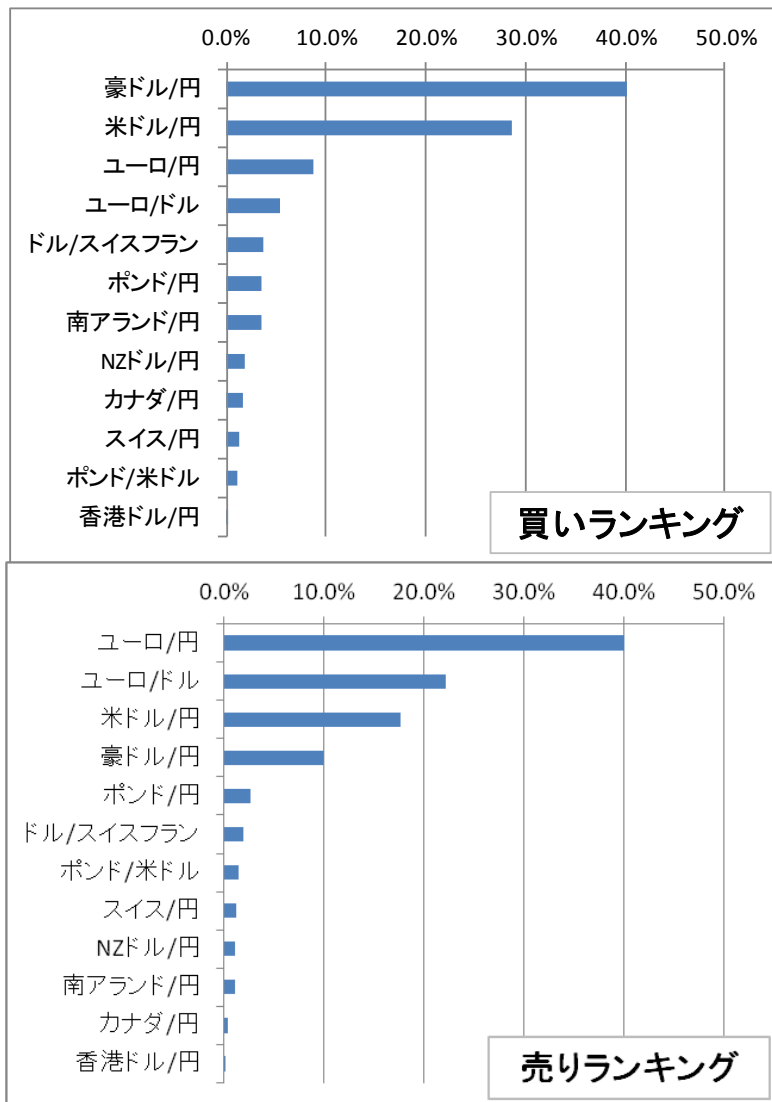


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

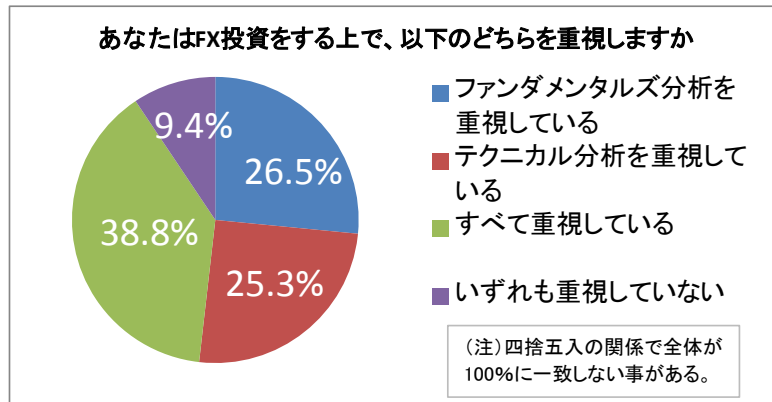
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(40.3%)、2位ドル円(28.7%)、以下3位ユーロ円(8.7%)、4位ユーロドル(5.4%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(40.1%)、2位ユーロドル(22.2%)、3位ドル円(17.7%)、4位豪ドル円(9.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、豪ドル円が2カ月連続で1位の座をキープし、「売り」で注目の通貨ペアについても前回同様にユーロ円が1位であった。「買い」「売り」ともに2位以下の顔ぶれも前回と同じであり、それぞれの上位4通貨ペアの合算割合は80%を超える(「買い」は83.1%、「売り」は89.9%)。「買い」と「売り」で順位こそ違えど、FX投資家の売買興味はこの4つの通貨ペアに集中している事になる。豪ドル円やユーロ円、ユーロドルについては良くも悪くも値動きの良さが人気の高さにつながっていると思われる。ドル円については、値動きに派手さはないものの、馴染みの深さと入手可能な情報量の豊富さが引き続き高い人気を保っている背景であろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

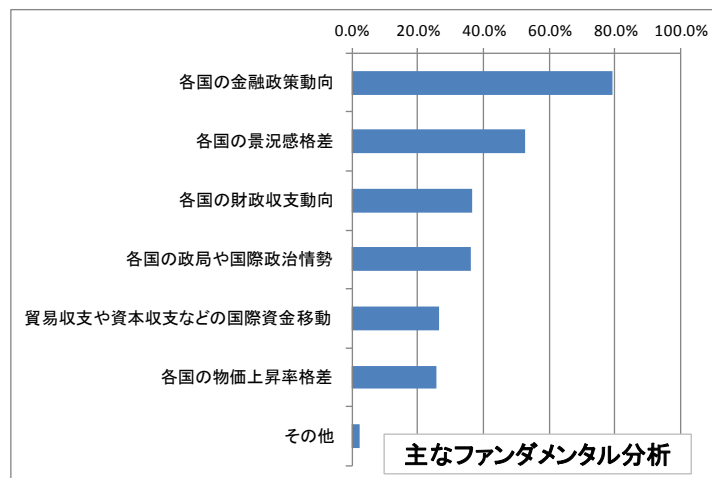
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.5%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が25.3%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が38.8%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.4%であった。調査開始以来、この回答割合に目立った変化は見られない。足元では、欧州債務問題に絡んでユーロ円やユーロドルが乱高下する場面が度々見られるが、FX投資家の相場分析スタイルはこうした相場環境などには左右されにくいようだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)**

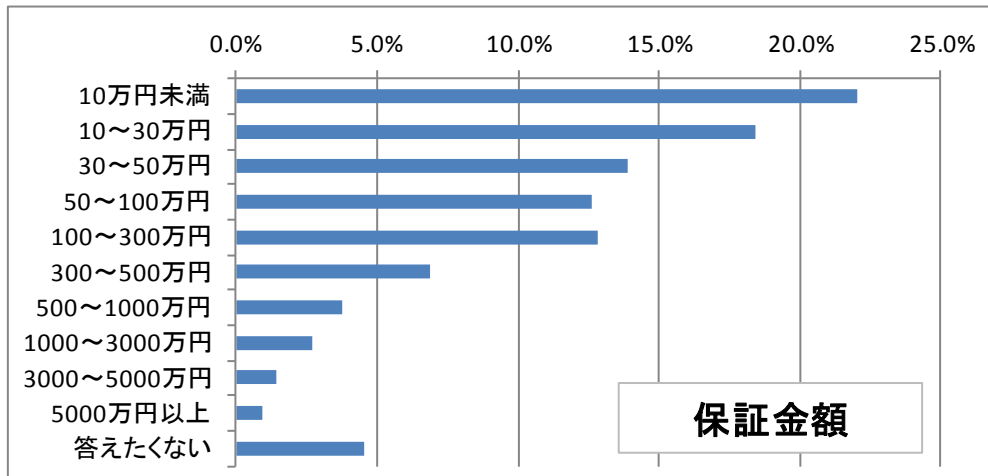
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(79.2%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(52.9%)」、「各国の財政収支動向(36.5%)」、「各国の政局や国際政治情勢(36.2%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(26.3%)」の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めた。なお、欧州中銀(ECB)が利下げに踏み切った事で(政策金利の引き下げよりも、預金ファンリシティ金利を0.00%に引き下げた影響から)ユーロが売られ、米追加緩和観測を背景にドル円が弱含むなど、7月は各国・地域の金融政策動向が為替相場を動かす場面が多かった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

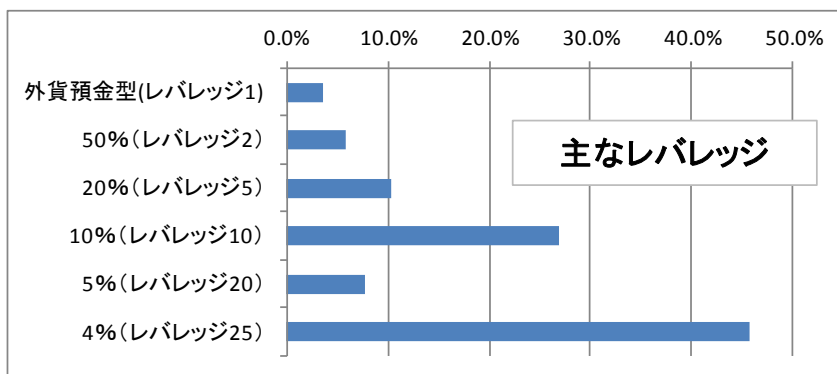
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が22.0%と最も多く、以下「10～30万円(18.4%)」、「30～50万円(13.9%)」、「100～300万円(12.8%)」、「50～100万円(12.6%)」と続いた。7割近くのFX投資家(合算割合で66.9%)が100万円以下の保証金で取引を行っており、問9のレバレッジに関する質問の結果と考え合わせると、各個人投資家の実際の売買金額はそれほど大きいものではない事になる。それでもなお、個人投資家の動向が為替市場全体に与える影響が決して小さいものではない点を鑑みると、小口投資家の集合体であるFX投資家の裾野の広さを改めて感じさせられる。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が45.7%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が26.9%、「20%(レバレッジ5)」が10.3%と続き、以下、「5%(レバレッジ20)」が7.8%、「50%(レバレッジ2)」が5.8%と続いた。FXの最大の特徴のひとつである高レバレッジを活かして取引する個人投資家が半数近くを占めており、その投資意欲の高さが窺える。なお、今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.3倍であり、昨年8月のレバレッジ規制以降は、概ね15-16倍前後で推移している。



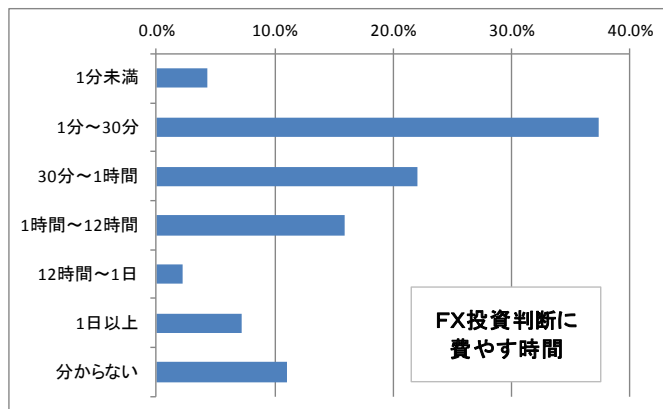
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



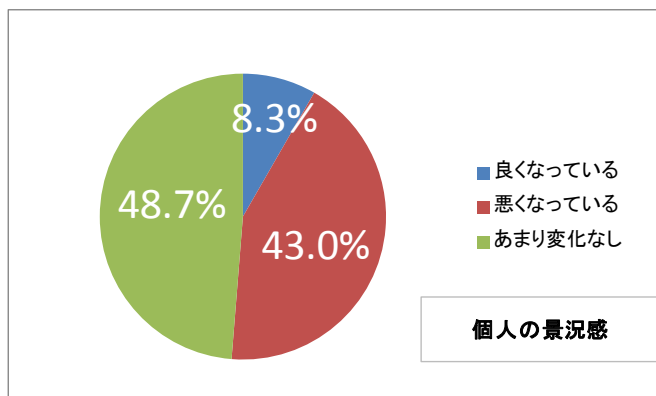
### 問10:FX投資で、投資判断に費やす時間は？(売買の検討を始めてから実際に新規注文また決済注文を出すまでの時間)(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、FX投資で、投資判断に費やす時間は？(売買の検討を始めてから実際に新規注文また決済注文を出すまでの時間)(ひとつだけ)と尋ねたところ、「1分～30分(37.4%)」が最も多く、次いで「30分～1時間(22.0%)」、「1時間～12時間(15.9%)」と続いた。なお、「1分未満」と答えたFX投資家も4.3%いた。一方で、判断に半日以上かけるFX投資家は合算割合で9.4%にとどまるなど、FX投資に際してあまり時間をかけることなく比較的気軽取引を行っている様子が見て取れる。また、投資判断の際に何を参考しているかについて自由記述形式で尋ねたところ、投資判断に費やす時間の長さにかかわらず「チャート分析」との回答が圧倒的に目立ち、チャートを眺めながら売買のポイントを探るFX投資家が多い事が分かった。



### 問11:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「良くなっている」が8.3%、「悪くなっている」が43.0%、「あまり変化なし」が48.7%という結果になった。この質問は3カ月に1度の割合で調査しているが、前回の第35回調査では「良くなっている」が16.7%、「悪くなっている」が29.4%、「あまり変化なし」が53.9%であった。「良くなっている」と答えた割合が半減し、「悪くなっている」と答えた割合が大幅に増加しており、FX投資家のセンチメントはここ数ヶ月で悪化した事になる。足元で、円高・株安の流れが強まっている事が景況感悪化の背景であろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第38回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後についても、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9

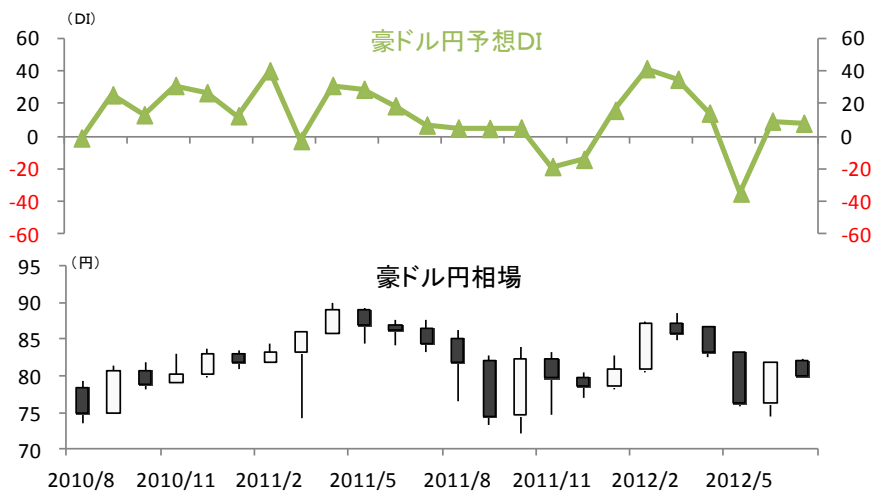
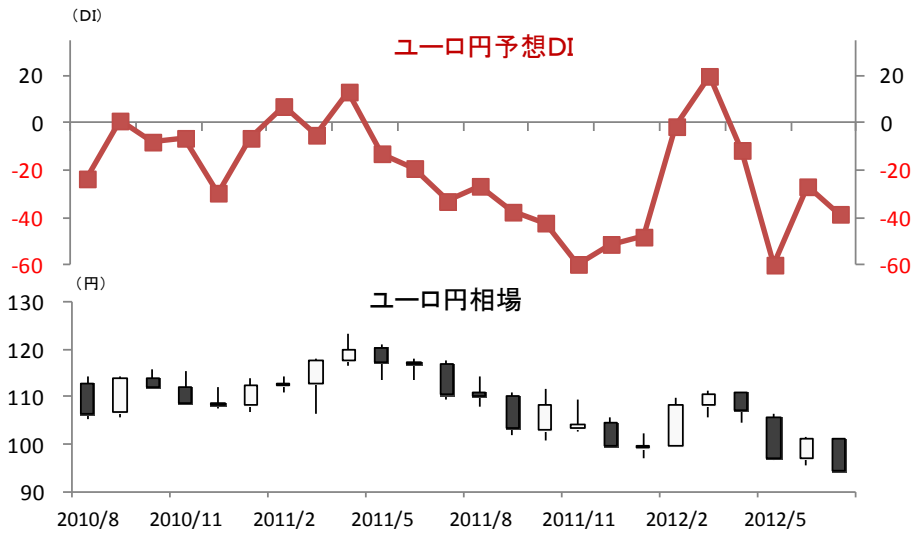
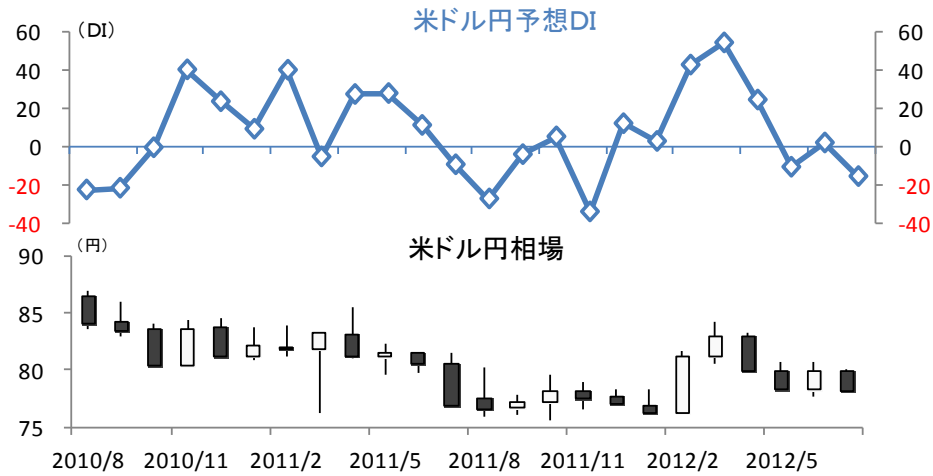
(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com